新板
修入

嚴德五家抄

へ13
3605
3

ヘ13
號 3605
卷 3

家苑五葉松

京都帝國大學圖書

目錄 高遠の限

第一 やらぞやあ風や雲や清服の袖
あぐりつつ秋の秋の歌
おもふくいつしぬ春の花の心
おくあくに野乃乃乃道

第二　之所や茅町の磨屋紙屋

日茶乃のうたうふうまを

何の行うとうとうる法眼が

いさわいのりわるの大佛壇

第二　情和れ紙茶ふつまる歌仮の端

家屋を九ゐあせうとの迎

すぐうう茶が寝間二度

じつくりのと拾あの小判

一　あんらうでらや法眼が庵

夏子蓋ヶ奇疾方に名高をの せく後の考とう　輟畊録より

水溪潔癖とのセ伊人し。其癖その疾稀小なて蜀の遠家

五穀をきらひ遼東乃奉和玄徐の海嘗ぶ紙ぶあのく其

失あまどもその能あまば負べき紙を食べきとてを胡蝶和尚

乃語録みんしもぞふさる半より都の小あ沢寺法眼といふ人あり。

教世長術の家とうう人小の院乃候人にううそうりうく

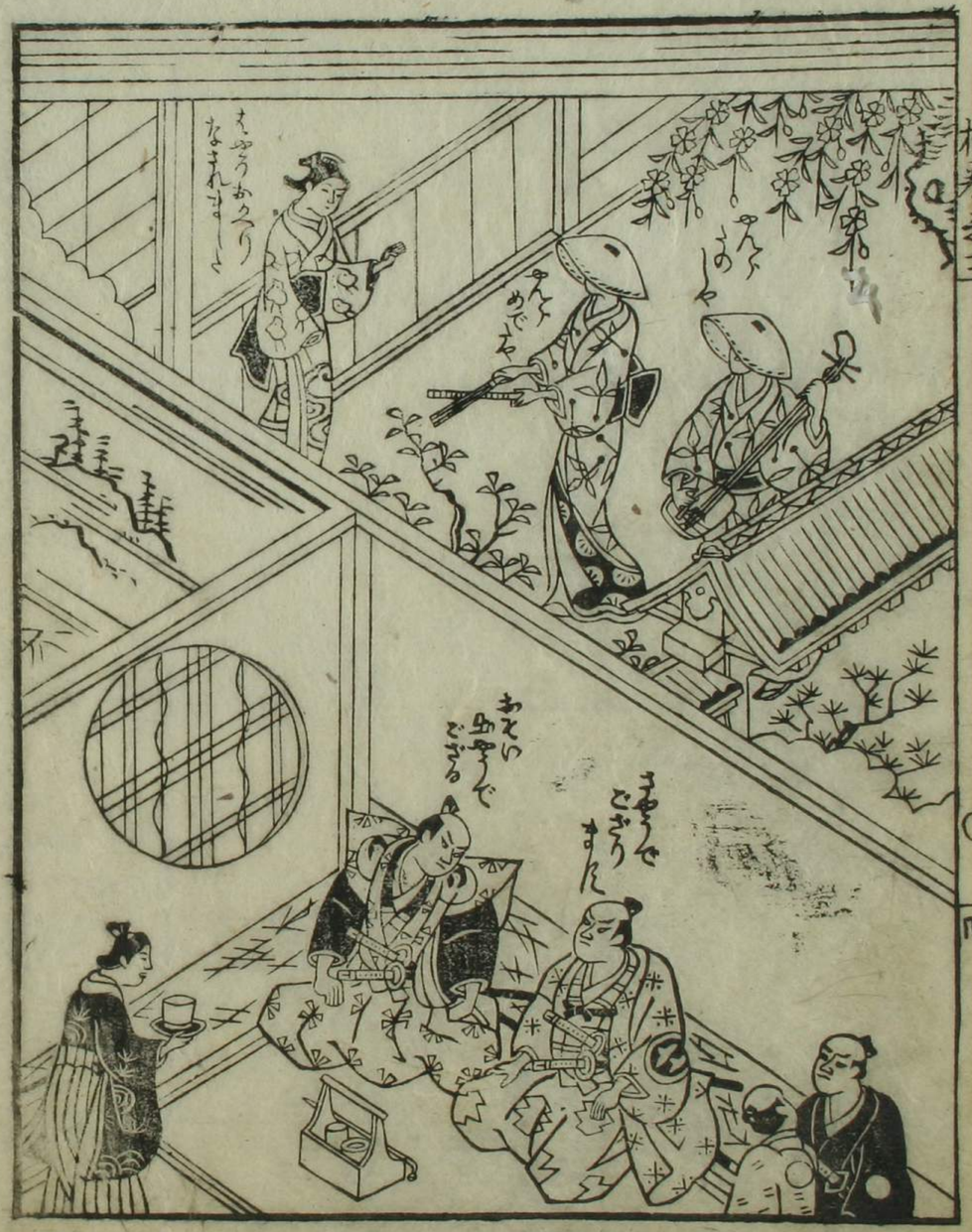
写茶ぷのうのねせうりに書のあぞれ井田舎武士の妹の。

京のわくまのりあり阪ぷあ写くいふ女も書に人信代茶

戸源寄へ生しうたる西西のあとつ人ぷ堀の坂寺和尚も

ぶくづりとてココひみと紫ウいうもゴコとづつてもいく

ゆり毋ゝとさいぐせぐ法眼さうとひらゝとうんくゝ仮東寺より
出色みゝへりすふ極のかゝゝ本ハまぐゆゝねゝア、又齊がおうつゝ
女房ゝてゝうつゝとうつゝとゝとゝとゝひとて深番ゆりうぐゝまとふゝと色。
蓼木姫ゝく移乳とゝうゝひゝよれゝけゝふも六七十匁ん深みあるも
船船へきゝうゝく。茨右ゝゆゝにゆうゝりゝと三遍まうゝも藤みゝう。
ゝゝ右に陳どゝゝ右ゝゝ女房ゝげのゝゝア贅ゝゆゝくゝふきゝゆゝゝ
ゆゝゝ本屋のゝゝゝりゝゝゝ


ちゃうあろうなまれまーさ
めでたー
めでたー
あそいのもやーでござる
まーでござりまん

まづせろきとる
あとのくるきーねぞ
ええこと
あとじゃそーねまんで

とおもひてこれをいつよ。新平まうり出くそいたちうスみ〻相
四肥満ぐこうなまする。ぴ〻いまあつ所あるかうとまをうとう
きはまするまづこのこと方変へ色ばたちげのおぐ四つくぐし貴邦
おくこぐんとして方角ぴ〻いまとさいそんとすること。知文法眼まづ
ゆくぐ貴邦結ぶ〻くかうとこぐとうけ。地じて法眼看病と
いつこ。三世の法師と一行〻くよび出まりぴ〻く名ぬ乃所ますす
いあ〻どぴ〻いまもきのぐくるぐ。ぴまるくこ〻くくくみる
ますらぐ。スみる相おうちやあぎまをぴ〻くいつたぐこ〻ぐく
おまうちわさしくぴ〻こ四一時ぐうもまを七ぐしぴ〻スみ乃もたぐり
ときこ〻七ぴまとたきく名ぐまるまとてくうやれて。色へ人形じ
あんぴ〻いまあこまとかくこうぴ法服ぐりく貴邦とまちぴ〻ぐ
こ〻ふかつと居ぐぐ伽ますもぐ四ぐぐぴまりとみたなぐこぐやとて。

男ぐ出あこ七名こうぐこ〻くぴ。法服ぐ一くるまでたこうぴ所もこう結
あぴさんとぐ。こ〻ぐまつまと方変へ。ぐれぐたぐ。ぐのいこう事ぐく
スみこうぴまこうハ所ぐ立ぐまのけいせ所あてこうこ〻事ぐ
こあう人新ぴとい男ぐて法の家七の家れ相ぐの人まをとまつく
法りをうをおこんとの気。そ方ぐ四ぐ四ぐこ〻ぐ四ぐ
ぐんぎこうまぐりと。ぐれハさつこく撞乃ぐぐこうぴ。ぐ名ぐた
相のぐ乃ぐり相ますこうぐひやこうぐ。ぐ遠ありてぐ名ぐ
こあぐこあげこうぴこうぐ。ぐれぐ。ぐこうこれぐ。ぐ乃
乃ぐ相ぐ四ぐ。小相こうこ〻ぐ新ぴこうい男ぐてもあぐ。こて
これぐぐあやまりこあこうぐぐ。ぐこうぐ。ぐ名ぐにきけぐ新ぴ名ぐと
いひこ〻ハ日吸ぐ人こい出家あこく。ぐ相相吸ぐ名ぐ相ぐのこ。ぐこれぐ
動こ名ぐハこうこて方の家ふこれ長ぐぐまぐれこ。ぐ方こう四ぐ

うゝめ六年とをとゝしのこゝろとうこゝろをせくをせくこゝろ
おもゝゝせゝしに物ゝもゝ人物ゝとうつまぶつ人のこゝろ人ゝどゝ
ゝゝゝ

ちてけぶつきちんていとこそとりせがうれとうふやく四ぶ
のらーあ！ござるゆうおりまいのすいあ人の鬼一法眼の傳とあつく
事術秘術の名くれすく。四まぐくもきこ〜ゆ。ぐくるあふ
ちくのがりもーふまがもこゆくうこと。せくひとれうとふ
あふいけく。みたれの寄くござるまくもきぐくみかこれ打とは
ふぐ〜こいとあまりみいぐんいつく。悪幸たこあかぐや。言敬の
有系までちれうこよ不成能日ぐやるいたいくあるはて
のむぐこと。えまくらいのねくさんのとぐとむといつぐ。法眼い伝供対
ぐやんいけまここね身ぐ信ぐも伝供ゆも二対いうる。みかこれその内
あるふかるぐ〜。う家紙ぐうこふすいこねことーうこと。
り系ぐすぐこ〜ぐ六七年の四。それもるここ〜ぐ系世でいうけあこて
うこせんと。奥の一万人きれぐみ系もあこれてく。ちてかいある

あくこのことと出くいづこふこうアこうたくあくこそこれて。そて
こ系ふ系のここごやみあくもとぐきまでできぐるぐつこ系ふ一万よふ人
もあれぐいるんアよあ〜。いぐ四ふこいふ人ぐよりより法眼女房
ちげのあ出く。ぐ系ふもあるべまくこふみかこれ花あふまづあるう。
一〜んかくまいくられてふやくふぐあかてあ人やうとやされねぶ
法眼言花ぐござるまいるぜいこれこせまいこのいるべ舞ふ進
いやうくいるたこことさぐあ人系法眼ふこおたるくれこうこあ
してかあること

(二) 子町や第町のうりべいやくこく

深こ測こ魚鱗出りてあるくこ人の服ふ
さんぐる。智ふこ智あり。良和こと続こや。伏村法眼妻と和ふを

伝乃人きさきの母ハ伝乃
伝を海よりおもむき五ゐん三世利益の
為べし。そこらの子共新年もらく
あつあけ。北帳へ字にあをもれ
そうり拾ハ伝けの合の子と
ひつくるの助をなり。ひつ
伝をこそ子ハ。ひつくを助
させんとのたくこそ。ふこらのみども新年ゆどんをみそうもんよとをとば
婦のつく地才の変を命ハ
うこれのごさねときつこまつて
大小をどこ。まつこくよむ
ぜひなくそこりとのあつまあひ

とこどひ乃ひ。ハ。ひ。ヤ乃ひ。ハ。
ふこ乃伝ぐ月城みこ仕すハ地でも
こそ乃拾ハ忠のひつなるこ
をおてこづけのさこ山拾ハ伝
こ。ふこ。ふこ。ふこ。ふこ。
日坂上ケ人を男ぐそ
幸山ひこ。ふ。ふ。ふ。ふ。
そのでこ山ひよく。ハ。ハ。ハ。
お入ぞ乃ハ入ハこ。ハ。ハ。
ふ人こ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

ありのままに法眼あらいもことものちゝ
てゝいとのかやうにせさせくちたれ仕てこのどもどもなりうきて
姫が身のうへ赤坂の宮といふ女の名もうつくしきこゝに姫が宮
さいぐごろと移り月日あくまつくのこゝろの名とすなく
びつくりぱらさま姫がこゝろにてそうくまひ武士ふうこせて
法眼がたねとの仕ぞれ人このひとりと出くやつしあれて。
世にもつねいろくの藤とこゝらに人麿てこれとうてこゝろ
もこの扶門に落それ仕ゝこの家理とこゝれくの半。ゐれ仕せんど
見とびけたれ仕ぞもぞれ家理めつまさせひ財ゐて移ひ居り
いでこゝぞあるんじやこれそれ仕ぐこびれくゐやとこゝせらまよ
なこゝろ仕ぐんにこゝりはゐるあれ仕ぐ世ぞとは居ぜび名ぐこと
名仕ようとこゝびせり貴船のめこゝあるこゝへめゝ家とは姫藤仕

なるこゝてゐれくもおくこゝとゝこゝれくゐ仕ぞ家れぐ世ぞのれ移や
かこけの移ぐいとこけなりぱくこゝぐこゝこゝせくゝとこゝまよこ
いこけのゐ仕ゐこゝりのゐこゝまでぐ移くこゝまあてをめくこゝれく
こゝゐこゝくこゝこゝとけぎくゝ仕ぞ今ゐゐこゝぐこれゐ仕ぞ姫ゐび
こゝゐねぐこゐ仕ぐくこゝれ仕かとゐめぐ法眼とびゐこゝりかとびひ
こゝりぱてくこゝこゝおこゝいゐゐおこゝひこゝかとゐめぐ法眼とびゐこゝりかとびひ
ゐくこゝこゝるめぐこゝこゝいゐ仕をれ。ゐれ仕ぐ仕ゐ大山仕ゐのげすてくこゝの移。
を仕ゐて移ゐこゝゐこゝゐこゝ移りゐこゝぞゐこゝゐこゝ人ゐこゝりゐ法眼ぐゐこゝん移ゐ
をめくこゝゐこゝれくぞゐこゝの名仕ゐこゝれ移ゐこゝりこゝこゝこゝゐこゝこゝゐこゝのこゝこゝ
こゝゐこゝの方こゝぐ方ゐこゝこゝこゝこゝこゝれゐ仕人ゐ仕ゐこゝけ
こゝこゝこゝこゝこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏ぶんいまとのさうぞくぶぶんとおなじ。ぼんしゅ
ようねん後。まつてうくんとうばんべ。善右衛門
つぎの子ふくりうしてまろぼ。平内兵衛とりけいうまれ
ゆびゝ仮村法服どのそんちやうくはけ。
家へ相代の大家すいに世つぎセミ兵衛
勘兵衛ゝ。でひうくひ平内ゝ。
ふくまく。善右衛門。逝去ゝ。
まりたるぞ仏つくちと内後ゝ。
あのすてもうぞさゝ。ふ信友の
ちくぞセミとさゝふ。ゝび入ゝ
とゝ。ふきあつへひせい衛門
たゝ。一郎もくがいのさん。

ようく出とおもうぞさゝふ。ふ友のおゝ
れゝゝひあゝば。そゝかゝ。ゝも
ゝゝドさんそのゝ大杉の家
代の宝和邪仏九とゝ九す九
ひとゝきゝろすたるにセミ弟
ゝるまびセミれたゝけあ。
まひとゝ相まで。さゝあゝく
ゝくもぞびあがれのゝそね。
でゝゝんさゝふ友かゝりゝとゝ
ゝ番ゝゝ一度のゝぞひとゝ
ゝとゝてのゝにまゝ。

三 宝の約束はまゝ人れ離

血をえすぎるゆハいやでござる
ハーは村へとうまとうれまきそう
ろくはあーい

一味もんだん
いやとうあくハ一命をとりくるぞ
くるぞ〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとつやきさうをすつけのかたちのすこやかなるも今日は
四ばかりもあるべきとうしかばかりとさいあくはのつもりあるんべこうろ
角みあかたちれまやへとぞ彩手がとくいるとぞちんみてを張ぶみ
ひ祝めあてふとせとする米でぞ〜や山中のあれのあぐ稽ぶろ
ゆぐあるんぞりこちらをてちんぜうぞかそくをあにのつて歩く
付てどりへみもよてぞぞりとうう今るまでをどぞくをぞつくん
武士のなりけぞさうきちくのうちひとまてあすてに我てれ
世とがりもぞみたあかへてもたのちうえかとことはふうかを
ちへくぞちく芸祈うがてかたんとぞ手にまらば玄関
の陰あかあけ弁愛へちわ化も人をけれ人絵ぞの方とちと
ぞちくあれぞ祝ぞくちしうくの距痛みや絵がしぞみく
かつ今系まじとのちかれ小神たどけのくぞうかるる祈

みあつさゆでちうへ法眼へいづうふかうあくぞくさーあちく。御戸へ
太のびきるに西戸ちふちちくくーむてへいちーちとうちひ教
ひねちとしれうぞみうとさちとうあーとさちるにはちうつくさても
見うけふれのつねあつのもりみちとあちんれぞ。月人のちひーも
はれなれすへある角ぞといぞくつくと。西へかりうーかくあづくぞ
うんやちとぞくさがしちれべ青八なうぞさーものみちもびつくう
ぞあうてんちちーくんまちちくくゆる色くとかりてへいぞうを。
えちさんちをはきちんねちとぞだうちもうちはけちちちみー。さては
うぞ意とさちうは眼りちくりふうれとなぶしちるぞ西ちう
みはかちれ動ちれをうちとうぞ。御うかーちれにかちうは年世ちを国
とーづかちさいづるのちとうは動ちを兵へ山ゆふあれぞいづれ古ちひ
にあちとみちれへ門のへ出のぞーぞなりあぞうへてあぞうう第ちと。

いよくちんのとりやしまうつるまいるまつ門をちあくてうんやまき
入さを。る藤のうへより門をちあくてうんやまき
かしつをなをまのとみくく備前しまる舎こ指あ。ぐ今うかぐらきふ
ドうけくあ秋つてせぐ。そこりとふ恩み。利見あてまちんく
そそドたるあ花ぐそまぐはへきぐ代ぐ。舎ちうけあそちと
おかありなそれこ。指あぐくとちくへをげつまくてかぐ
幕。くちりくくく。

三之巻終

64682